

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」

——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）

夏 剛

日本の「表徴の帝国」の根底の「中空」と中国の「帝国の表徴」の基点の「中控」

「文革」勃発の1966年に^{フランス}仏蘭西の文化使節として哲学者ロラン・バルトが訪日し、記号論の観点に由る印象を『表徴の帝国』（1970）に記述した。精神世界が記号を意味で満たす西洋の「意味の帝国」に対して、日本は意味の欠如を伴うか意味で満たすことを拒む記号が存在する「表徴の帝国」とされた。森と濠^{ほり}に囲まれた皇居が忙しく動く大都会・東京の空虚な中心を成すという逆説を以て、官庁・教会・広場等を設ける欧州の同心円的な都市の中心と較べる処は、河合隼雄が論究した「日本の深層」の「中空構造」⁸⁰と考え合わせれば合点が行く。鋭く掘り下げた『古事記』神話の中空・均衡構造は西欧型の中心統合構造と対極に在り、日本人の心性の胎盤や遺伝子を解明する手掛りと思えるが、「中空」に因んで中国の表層・深層の形態・本質を類似の概念で概括するなら、中国語で同音（zhongkong）の「中控」（中央支配。控＝制御〔制御〕）が思い付く⁸¹。『表徴の帝国』の中国語訳題「符号帝国」を借りて言えば、中国的な「中控構造」を体現する「帝国符号」（帝国の表徴）は、文字通りの「意識形態」（ideologyの中国語訳）として目に付く。

小林秀雄は1938年3月に『芸芸春秋』従軍記者として渡中し、明治大学教授昇格の6月に「蘇州」を同誌に発表した。内務省に一部削除を命じられたこの紀行風の文化考察の中で、日本の近代批評の確立者とされる「知の巨人」は珍しく毒舌を巻き捲り、干支1巡（60年）後に世界遺産に成った蘇州の庭園群を荒廃・頹廢の「廢園」と呼び、鴉片を吸い若い女を抱いて極楽の夢を楽しむ欲求に合う代物として「俗悪な」「奇岩怪石」を斬り、明確な企図を隠した完全で奇妙な構図^{こしら}を拵え上げた馬鹿馬鹿しい大真面目さを貶した。日本の古典に造詣が深く西欧の教養も高い彼の審美眼から見れば、簡素で含蓄に富む京都・龍安寺の石庭に比べて中国の庭園は

難解・退屈で詰らないわけである。蘇州は水郷都市につき「東洋のベニス」の美称が有り、内外とも名高い名園の塊の様な感じは世界遺産の最も多い国・イタリアとも、世界遺産の寺院を多数（龍安寺も含む17カ所）持つ京都とも通じる。1845年に訪れた仏蘭西調査団員が「世界最大の都市」と折紙を付けた蘇州⁸²⁾は、文明の厚みに於いて千年の古都・京都と同日に論じ得ない事は無い。小林の蘇州庭園・中国文化観の「高慢と偏見」([英国] オースティンの小説[1813]の題)は、意味で記号を満たす精神世界の構築への拒絶にも由来したのかも知れないが、中国では「中控(中心統合)構造」の意図は好く大真面目に施され、確かに馬鹿馬鹿しく映る場合も有る。

「毛沢東号」機関車乗務員組が首都国慶節祝賀行進を先導する慣習と対を成して、鉄道部が「文革」中に定めた全国の特急列車の1番、2番是北京-韶山間である。湖南の小さな市が特急汽車の終点と成った事自体は毛沢東崇拜の産物に他ならず、有権者を囲い込む為に地元へ新幹線を誘致する日本の政治家の要求も精々停車駅^{とど}に止まった。北京五輪聖火中継^{リレー}の国内行路^{コース}の112の挙行地に毛、鄧、江、胡の故郷(湖南省韶山、四川省広安、江蘇省揚州、安徽省績溪)が入ったのも、成果の精華を顕示し声価を高める建国記念閲兵・祝賀行進の狙いを上回る露骨な「洗脳」と言える。福建省龍岩、江西省瑞金・井崗山、浙江省嘉興、広西壮族自治区百色、貴州省遵義、陝西省延安等、革命の発祥地・根拠地を随所に組み入れた「紅色旅遊」(革命所縁^{ゆかり}の地の観光)的な設定は、4世代の生家や原籍の地で「history = his story」の英雄史観・人治思想を露呈させた。翻って東京五輪聖火の在り方を味わうと、国内中継^{リレー}は鹿児島・宮崎・千歳3市から始まった時点から意味性が曖昧であった。広島原爆被災の1945年8月6日に広島県三次市で生まれた坂井義則が最終走者に選ばれたのは、日本にしては明確で強烈な世界への平和祈願の発信であるが、その早稲田大学競走部所属の裏に首相を輩出した名門学府の隠然たる影響力が散ら付いたものの、首脳故里まで強い光を当てて大寫化する流儀とは次元が違う。

1969年10月、ソ連の急襲や爆撃に備えて党中央が要人の緊急疎開を決定した。劉少奇の開封行きもその一環であったが、毛沢東は先駆けて四方の国境から遠く離れる華中の重鎮・武漢に行き、2日後の17日に林彪は上海-南京の間の蘇州に移り、首都に駐留する周恩来は郊外の玉泉山の地下の中央軍委戦時指揮中心^{センター}で執務することに成った。言わば臨時準大本営は世界遺産・頤和園の構内に在るのは人を食う感じも無くはないが、国防部長が蘇州に身を潜め其処から「林副主席指示(第1個号令)」を発したのは、『孫子兵法』を生んだ秀麗・高雅な文化都市の別の側面を覗かせる。第5世代の中堅の一角と目される蘇州出身・所縁の新鋭の台頭が報じられた⁸³⁾が、「食在広州」(食は広州に在り)を3番目とする4句の4字熟語の冒頭の「生在蘇州」に暗合する。生まれるなら蘇州でと言うのは子供の誕生百日祝いの格別な盛大さに因るが、「住在杭州」は毛が「第2の故郷」と称した同市での2カ所の別荘を「第2の中南海」として愛用した⁸⁴⁾事でも頷ける。一説の「住」ならぬ「穿」(衣)は杭州産の上質な絹に因んだが、

結びの「死在柳州」は広西・柳州特産の上等な材木が棺桶の材料として最高だからである。生死や衣食住を網羅した「理想郷」群の俗諺に倣って言うなら、第5世代の党首には多分「生在北京、住在北京、死在北京」の天命が待っているだろう。北京五輪開会式で元「体操王子」の実業家・李寧が最終走者として聖火台に点火したが、^{ランナー}選りに選って彼が出身民族・壮族の自治区に在る柳州で生まれた事は興味深い。

日本語の「上京」（東京へ行く）と「下阪」（東京から大阪へ行く）は、商都・大阪までが下位に甘んじる東京の優位を誇る差別的な表現である。曾て京都は中国の都・洛陽に擬えて「洛陽」とも呼ばれたことから、地方からこの古都へ赴くことは「上洛」と言い、対義語の「下洛」は京を離れて地方に行くことを指した。今でも国賓や観光客等の京都訪問を言う「入洛」は、（特に貴人が）京都に入る意で昔から有った言葉であるが、現在の首都との上・下関係を避けつつ矜持を保つ京的な知恵に唸らせられる。中国では各地域の自尊心が「上京」や「下〇」の言い方を許さず、「入洛」に似た「進京」（北京入り）が首都・地方の人とも許容される。「進京上訪」（北京に行つて陳情する）の熟語はお上（首都の官庁）への人的な畏敬を帯びる（役所側の言い回しの「来訪」は寧ろ対等的な感じがする）が、首都の上位を明文化で表示する制度・言語として、「上行/下行列車」は原則的に北京方面へ向う/北京から遠ざかるものである。

日本の「上り/下り」の概念は場合や時代に因って異なり、例えば国道では其々起点/終点に向つて行くのを指すが、大正時代の起点は全て東京（道路元標は日本橋）であり、現在は重要都市や人口10万以上の市、特定重要港湾、重要な飛行場又は国際観光上重要な地等が該当し、其等と連絡する高速自動車国道等が一般的に終点と成る⁸⁵⁾。鉄道では都市間輸送の新幹線等の場合は、原則的に東京方面に向うのを「上り」とする。従つて対岸同士を結ぶ路線は、本州では太平洋岸や瀬戸内海岸に向うのが「上り」、日本海岸に向うのが「下り」と成り、四国では瀬戸内海岸に向うのが「上り」、太平洋岸に向うのが「下り」と成る路線が多い。都市郊外と都市部を結ぶ鉄道に於ける「上り/下り」は、主に郊外から都市方面に向うこと/その逆方向に言うが、『鉄道要覧』等に掲載された戸籍・登記上や建設・開業時の始点を上り・下りの基準とする場合も有つて、必ずしも統一的な尺度は無い⁸⁶⁾。東京メトロ（地下鉄）では都市部を走る為に全路線で「上り/下り」の表現を用いない⁸⁷⁾が、都区部の中心駅である東京駅がこの場合に起点と成らない首都の内部の「中空」は、往年の全国への「中控」の弛緩化と結び付ければ興味深い。

中国の「上行/下行」の概念は鉄道・高速道路の両方に有るが、鉄道では列車の運行方向に就いて明快な規則が設けてある。即ち、全国各線と枢紐地区の場合は其々鉄道部と各鉄道局の規定を基準とする。前者の原則は北京方面へ向うか否かが要点であるが、南北走向に比べて決め難い東西走向で北京から遠く離れる区間に於いても、北京は暗黙の線引きの基点を成す傾向が見られる。例えば、甘肅-陝西-河南-安徽-江蘇5省を貫く隴海線では、西の起/終点の

蘭州から徐州に向うのは「上行」、徐州から同じ江蘇北部の海沿いの起/終点・連雲港に行くのが「下行」と成る。蘭州－青島間の場合も蘭州から済南に向うのが「上行」、山東の青島から同省都・済南に向うのが「下行」である⁸⁸⁾が、北京と徐州、済南との経度の接近（東経116度23分〔天安門所在地〕と同22分、58分）が要因と考えられる（蘭州は103度48分、連雲港は119度6分、青島は120度15分）。或いは別の割り切り方として、北京との直線距離が縮小して行くのを「上行」とし、起点が終点より北京との距離が長い場合も北京に向う「上行」と看做す。

其の仕組みは古今一貫の「一統天下」（天下統一）の国家意志を地で行く様であるが、日本の鉄道に対する首都の「中控」は同心円の焦点に程遠い。環状運転や東京駅方面が中間に位置する場合、複数の路線を跨ぐ運行の運転系統に於いては、「上り/下り」の言い方を避け、「北行/南行」「東行/西行」や「外回り/内回り」「右回り/左回り」（英語では clockwise/ counterclockwise [時計回り/反時計回り]）と称する場合がある。都心部を貫通する路線の多い東京地下鉄では、銀座線・丸ノ内線を除いて開業時の起点から終点へ向う方/其の逆方向を「A線/B線」と表現する。又、^{ナンバリング}駅番号制はこれとは無関係に南西方向から北東方向へ向けて定められている⁸⁹⁾。進行方向の上/下の規定に厳格な中国では、上り列車に奇数、下り列車に偶数の番号を付けるのも、首都の権威と求心力を強調する仕組みと思える。

1番/2番是北京→韶山/韶山→北京と成ったのは、北京が全国の起点・基点であることの象徴と捉えられる。3番/4番是北京－モスクワ、5番/6番是北京－^{ハノイ}河内、7番/8番是北京－成都、9番/10番是北京－重慶であるが、北や南の建国初期や毛沢東時代の同盟国に続いて、冷戦時代の後方基地の四川の省都と大都市が来るのは、俱に政治的な寓意が込められている。1番/2番は毛の死後に韶山を訪れる者の激減に因り南端は長沙へ変ったが、1番が北京発で「建国の父」の故郷の近くの湖南省都へ向うのは、天安門城楼に毛の肖像画が掛り続ける不易と一緒である。個人崇拜の時代では「赤い太陽」の生家・韶山も居住地・北京も聖地化したが、首都の主座はその権勢と同じく磐石の如く動かない。

1959年6月に錦を飾って32年ぶりで故郷に還った毛は、山の中に退職後養老用の「草棚」（茅葺きの小屋）を作ってもらおうと省党委第1書記・周小舟に頼んだ。望み通り出来た別荘「滴水洞」は彼の心の拠り所の一部と成り、病死の先月には其処に帰って療養しようとし其処での他界・埋葬を望んだ。党中央は毛が帰郷し天寿を全うする為に9月15日に手配を始め、省党委第2書記・張平化が電話で「行宮」に接待業務の検査を予告した翌日に毛は逝った⁹⁰⁾。長距離の移動が物理的に耐え難い⁹¹⁾にも拘らぬ敢行の計画は、集権国家の history（歴史）は独裁者の his story（彼の物語）に尽きる事を物語っている。ところが、毛の領袖の独断専行と詩人の豪放飄逸を以ても、「葉落帰根」（葉落ちて根に帰る。他郷に流離う者も落ち着く先は結局故郷であるとの譬え）の筋書き（story）は幻と化した。

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）（夏）

ソ連解体の恰度 65 年前の 1926 年^{クリスマス}降誕節の改元で始まった昭和は、1970 年に先代代の明治と並んで史上最長のと成った。その節目で 69 歳の天皇は最も印象深い思い出に就いて訊ねられた際、大戦前後の苦勞よりも若い時の欧州旅行を先ず挙げた。彼は 1921 年 2 月 28 日の東宮御学問所修了後した後 3 月 3 日から 9 月 3 日まで、大正天皇の病状悪化の中で戦艦「香取」で英国・仏蘭西・^{ベルギー}白耳義・和蘭・伊太利を歴訪した。同年 11 月 25 日に弱冠 20 歳で摂政に就任する前の言わば「卒業・修業外遊」が至福の体験に成ったのは、「籠の鳥」の様な生活から抜け出して自由を味わえた⁹²⁾ 解放感の大きさを思わせる。平成の皇太子妃も不適應の末に鬱病を患った現実⁹³⁾ は、『表徴の帝国』で喝破され東京の形而上的な中空に領けさせる反面、空虚な中心と成る皇居の奥の宮廷の「中控」に気付かせる。

毛沢東は好く地方（特に南方）に滞在し重要な会議を招集し重大な決断をしたが、首都を離れた心理は全国の実情を把握し制御する為⁹⁴⁾ だけでなく、南方人の故に北京の気候の乾燥・寒冷に馴染み切れず、且つ政治的な「鳥籠」を嫌う節も有ったろう。江青等を「上海幫（組）」「4 人小宗派」と叱咤した 1974 年 7 月 17 日の夜に彼は武漢に行き、長期滞在後 10 月 13 日から翌年の 2 月 3 日（旧曆臘月 [12 月] 23 日）に長沙で静養し、更に江西省南昌での暫しの^{しば}憩いを経て同 8 日から 4 月 13 日まで杭州の別荘に引き籠もった⁹⁵⁾。最後の「内遊」（日本語の「外遊」を^{もじ}振った造語）に於ける故郷の省都及び「第 2 故郷」での滞在の長さは、風土・気候・政治的な雰囲気等を含む総合的な環境の馴染み深さや凌ぎ易さを考えれば情理に適う。彼は武漢「7.20 事変」の翌日未明 2 時頃に東湖賓館から空軍基地へ急行し 11 時頃に上海に着いたが、危地の騒乱の渦中から脱出すると忽ち冷静に成った⁹⁶⁾ とは「傍觀者清」（岡目八目）の通りである。

建国 20 周年の直後の要人緊急疎開で毛沢東と林彪は武漢と蘇州に移り周恩来は首都に鎮座したが、主席が国の中腹から「副統帥」と「大管家」（大番頭）を「^{リモート・コントロール}遙控」したのは正に「中控」の典型と言える。1974 年 9 月 4 日 - 10 月 6 日の間の国賓との 5 回の会見も相手が武漢に向いた⁹⁷⁾ 「朝貢」の形であるが、翌年の最も秀麗な季節に西湖の畔から帰京したのは翌日の金日成との会見に合わせた措置だと言われる。金の杭州行きの予定を変えた毛の決定という説⁹⁸⁾ は特殊な友情の体現と捉える公式見解⁹⁹⁾ を裏付けるが、建国後の 57 回に及ぶ地方滞在中で例外的に会議・視察が一切無かった 270 日間もの長期休養¹⁰⁰⁾ は、首都圏を含む広域で 74、75 年に大地震が起きる危険を専門家が警告し国務院が 6 月 29 日に通達した事に一因が有り、翌 2 月 4 日の遼寧省海城烈震（マグニチュード 7.3）の予報成功とその後の北京地区の地震予報は、1 級行政区の中で有数の強震僅少の浙江省¹⁰¹⁾ に 2 ヶ月余り居続けた合理性の説明にも成れよう¹⁰²⁾。結局は国事の為に急遽帰京し翌年 7 月 28 日の唐山大地震（同 7.8）で安全な施設への移送を強いられた¹⁰³⁾ が、不本意にも中南海で天に召された事は昔の帝王の運命を辿り歴史の「天網」を浮き彫りにした。北京占領の当初にも彼は第 2 の李自成の結末に対する忌避から紫禁城内への移住を拒んだものの、周恩来等の説得で中国の政治文化の伝統の根に帰り¹⁰⁴⁾ 「帝国

の表徴」を務めるに至った。中国では昔も今も君主の終の住み処も辞世の地も首都が好ましいわけであるが、歴史研究で許されない if (若し) を以て北京以外での逝去を仮想すれば興味深い。

1953年に設立し中南海等の要地の警備を担当する中央警衛団(連隊)の部隊番号「8341」は、毛の享年83(数え年)及び軍・党の統帥の在任41年(1935-76)との偶然の一致で謎を呼んだ。李自成の「皇帝」在位日数の41と中央の警備を司った初代公安部長(1949-59)・羅瑞卿の「83」は、北京に纏わる別の天数の連環に成る。毛は1965年末に林彪との政治的な取引で総参謀長・羅を失脚させ、羅は抗議の跳び下り自殺で「失脚」の文字通り左足の機能を失ったが、中央軍委秘書長就任の翌1978年に人工股関節置換の為に西独に赴き、手術の成功から1日も経たない内に心臓発作で8月3日の未明2時40分に生涯を閉じた。ハイデルベルク大学整形外科病院に入院中の変名「呉生傑」は、同音の「無生結」(wushengjie)が含む「生きること無き結末」と暗合する不吉な暗示に成った。積極治療を勧め出国を許可した鄧小平が激しく後悔した痛恨の悲劇¹⁰⁵⁾の後、8月9日の『人民日報』に載った訃報は、心臓病の治療の甲斐無く8月3日午前9時40分に不幸に逝去し、終年73歳であると報じ、12日の追悼会での鄧小平の弔辞も現地時間に当る北京時間を以て、羅瑞卿同志の心臓が止まったと述べ逝去の場所を抜きにした。ところが、『辞海』(上海辞書出版社)1989年版の「羅瑞卿」の項は、不可解にも「1978年8月3日在北京病逝」と記した。

この百科事典的な国語大辞典は1915年に中華書局(北京)の創設者・費陸逵が推進し始め、1936年に同社から出版され、同じ21年経った後に毛沢東が改訂を命じた。翌1958年に上海で編集所が立ち上がった後に更に21年経過して、漸く建国後初の完全版が世に出て、以後は末尾が9の年(建国40, 50, 60周年)に新版が発行されて来た。1979年版の主編(編集責任者)の舒新城(1928年就任の初代主編)・陳望道・夏征農は、共産党政権に近い知識人の中核的な役割を示す組み合わせである。湖南省第1師範学院で毛沢東と同期だった学者・舒、中共の創設成員で1957年に再入党した陳の死去(1960, 77)後、大型辞書主編の世界最年長記録を作った夏は2008年に104歳で逝ったが、2009年版の主編は彼と共に名を連ねた陳至立(同年新任)は、曾て陳望道が学長(1952-77)、夏征農が党委第1書記(78-79)を務めた復旦大学の出身(59-64)で、上海市党委宣伝部長(1984-91)の経歴も夏の「文革」前、後の中共華東局宣伝部長(62-66)、上海市委書記(79-82)と似通う。教育部長(1998-2003)、國務委員(03-08)を歴任した全人代副委員長の主編就任は、この国家的な文化事業の半官半民の性質に一層官制の色彩を加えた。1989年9月発行の新版の題名を新総書記・江沢民が揮毫したのもその傾向の前兆であるが、『人民日報』の意図的な曖昧・糊塗を超えて、偽装・捏造の誇りを免れない「北京にて逝去」と明記したのは、朝野のお墨付きを裏切った瑕疵と言えよう。

周恩来は逝去の3ヵ月前の1975年10月7日に昏睡から意識を取り戻すと、『辞海』の修訂では中国近代の歴史人物を客観的に・公平に評価すべきだと秘書に語り、清朝末期・民国初期の

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）（夏）

政治家・楊度が1929年に上海で共産党に秘密裏に加わった事跡を記載するよう手配させた。作家・夏衍を通じた単独指導の下での隠れた功績が歴史の闇に埋もれないようにという配慮¹⁰⁶⁾は、現政権の公式見解・評価を忠実に反映する『辞海』の特殊な権威を浮き彫りにした。恰度100年前の1875年¹⁰⁷⁾に毛沢東の故郷・湖南省湘潭で生まれたかの政界奇人は、周の遺志に沿って『辞海』で項が立てられ上記の事実が記され、「在白色恐怖下堅持党的工作」（白色恐怖統治〔反体制運動・革命運動に対する為政者の激しい弾圧〕の下で党の仕事を頑張り通した）と評価された。『中国大百科全書』（総編集委员会主任・胡喬木, 中国大百科全書出版社）の『軍事I』（1989）の「林彪」の項も、陳雲・黄克誠（大将, 1954-59年に軍委秘書長・総参謀長歴任）・楊尚昆等の要人の介入に由り、歴史を忠実に伝えるべく「軍事家」と定義し「文革」中の「大罪」の前に戦争時代の功績を認めた¹⁰⁸⁾。

因みに、この巻の「羅瑞卿」の項の死去に関する記述は4月後に刊行された『辞海』と違って、「1978年8月3日因病逝世」と無難に言う。共同執筆者の1人、「軍内一支筆」（軍内随一の文筆家）の誉れが高い姚遠方は、「文革」前・後の総政治部主任弁公室主任（事務局長）、『解放軍報』副社長等の在任中に、聶榮臻・葉劍英元帥や羅瑞卿等の軍委高官の為に文書を起草し、85年末に定年退職した後も劉伯承・葉劍英・徐向前（86年10月7日、同22日、90年9月21日逝去）等数人の元帥の弔辞の作成にも参与した。改革・開放を決定した第11期3中総会の閉幕の翌日（78年12月23日）に彭德懷・陶鑄の追悼大会が行われ、「文革」の迫害で74年11月29日、69年11月30日に死去した2人の名誉回復に成ったが、時の党中央副主席・鄧小平が述べた彭元帥の弔辞は党内の対立で起草の過程で二転三転した。毛沢東の粛清を正当化する為に故人の「欠点」を書くようという意向に姚は抵抗し¹⁰⁹⁾ 気骨を示したが、羅瑞卿に対する「蓋棺論定」（棺を覆いて事定まる）の記述で不都合な真実に蓋をしたのは限界を思わせる。

『辞海』1979年版は1965年刊行の「未定稿」版を大幅に改訂した物であるが、北京の関係部門の審査・修正を経た「林伯渠」の項の分量の少なさと評価の低さに対する疑問から、担当者が78年5月に上京し再調査を行ったところ、中央人民政府委員会秘書長として開国大典を司会したこの中共の創設成員に関して、然るべき指導者から初耳の上層部の機密情報を得て当初の原稿の杜撰さを指摘された¹¹⁰⁾。この紆余曲折は「竹の幕」の不透明さや北京の政・官界と上海の知識人の決定的な距離を思わせるが、真相未公開の時代の執筆者の「中央の要人の死に場所=首都」の刷り込みに因る思い込みが推察される。現に、毛・鄧の死を公表する当局の「全党・全軍・全国各民族人民に告ぐ書」は、現に、常識に沿って「北京にて逝去」と明記した。99年版は实事求是の精神に基づいて思い切った修正を随所に行い、例えば「朝鮮祖国解放戦争」の項の語釈を「亦称“朝鮮戦争”」（別称「朝鮮戦争」）のみとし、新設の親項目の「朝鮮戦争」では朝鮮の先制攻撃を暗示し（6月25日に勃発、10月1日に米・南朝鮮軍「北犯」と言う）、米国の「侵略」云々を削除した。「羅瑞卿」の説明からも死因や逝去の日時・場所が消えたが、

西独で術後に急死したという報道済みの事実には伏せた儘である。

「陳独秀」の項で「右傾投降主義」を非難する旧態依然は党史研究の限界を感じさせた¹¹¹⁾が、不都合な真実に対する粉飾・隠蔽の旧弊は未だに経済統計等に残っている。「幾何学の公理が人々の利害と衝突するなら、其はきっと論駁されるであろう、という有名な格言が有る。」レーニンの「マルクス主義と修正主義」(1908)の冒頭のこの説¹¹²⁾を証明する様に、1970年12月17日に譚甫仁(雲南省革命委員会主任・昆明軍区政治委員)が不満分子の凶弾で斃れた(享年60歳)¹¹³⁾のに、24日の『人民日報』の訃報は「18日在昆明不幸逝去」と日付を改め死因に触れずに伝えた。雲南と接壤する越南ベトナムで前年の9月2日に胡志明ホー・チミンが逝去した(享年79歳)が、「国父」の命日は独立・建国記念日と重なる為に、当局は対南・対米戦争の中の民心の動揺を防ぐ意図も有って9月3日と発表した。瓦解の危機に瀕した社会主義陣営の透明度向上の新しい志向を体现する様に、1989年に越南共産党中央政治局は真相を説明し遺書の全文を開示した。故主席は北部・中部・南部での分骨埋葬と戦勝後1年間の農業税免除を希望したが、実行できないとして当初の公表から削除された。20年後の是正も農業税減免に就いて政府に提議する事に止まったが、其の実務的な人治は体制の「中控」に因る元領袖の意外な「中空」を浮き彫りにした。「雲南王」の死期を同じく1日遅らせて発表した中国では、事件の全容が公に成った後も偽りの理由の釈明や訂正は無い。『辞海』1989年版の「羅瑞卿」の記載は同年の越南の情報解禁と正反対で時流に逆行したが、西独での逝去が『辞海』に載る日は今後も無さそうである。

周恩来は癌で13回も手術を受け体重が30^キしか無くなったが、耐え難い苦痛に耐える闘病の原動力は党の要求に応える為であった。彼の1日でも長い生き延びを望む鄧小平等の祈願には、存命自体が民心の安定や政局の均衡に繋がるという現実的な判断も有った¹¹⁴⁾。後に全人代常務委員会副委員長に成った夫人・鄧穎超は1988年1月22日、中央人民廣播電台(放送局)の番組への投書で安楽死に賛成する考えを公表した。安楽死を認めぬ国家の政策に疑問を呈す主張は世間を驚かせたが、「帝国の表徴」の維持に否応無しに協力した夫の悲壮な犠牲に刺激された結果に他ならない。自分の命の果てには人力・費用節約の為に延命の救急治療を望まない、という1989年10月16日付の李鵬総理(周夫妻の養子)への意思表示も、徹底的な唯物主義の精神や高度な共産主義の自覚として江沢民に称賛されたものの、実際には許可されるはずが無かった¹¹⁵⁾。文豪・巴金も「長寿は懲罰」の持論と「皆の為に生きる」信念の間で板挟みに成り、救急治療が数年も間歇的に続く中で強まった安楽死の切望も実行できず、2004年11月25日に挙国待望の百歳を不本意に迎えた¹¹⁶⁾後、翌年10月17日に他界し社会の負担に成るまいとの心願を漸く遂げた。

折しも当日に第2の有人宇宙船「神舟6号」が無事帰還したが、同じ日の小泉首相靖国神社参拝に抗議する駐日中国大使・王毅の談話は、宇宙進出の快挙を喜ぶ「全中国人民への重大な挑発」を譴責した。中・韓への挑発の要素が無くもない「変人宰相」の挙動は、秋季例大祭の

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）（夏）

初日を選んだ点では寧ろ日本の慣習に適うので、糾弾の件の理由は自己中心の言い掛りとして日本で失笑・顰蹙を買った¹¹⁷⁾。その的変哲の一言は同時に符号の意味性への拘りを示し、両国で「花火」や火花が派手に上がったその日に悄然と死去した巴金も、中国人の「長命百歳」の強迫観念や世界で無類の百歳作家の出現達成に対する期待に駆られて、大往生と言い切れない人生の閉幕に至ったのである。世紀の変化が享年3桁の作家に完全に集合した奇跡の価値を唱えた作家・余秋雨¹¹⁸⁾は浙江省余姚の人で、同県では王陽明・朱舜水・黄宗羲（俱に明・清の思想家）、蔣夢麟（北京大学学長、南京国民政府初代教育部長を歴任）等の思想家・大学者が多く出たが、彼は11歳から上海に定住し今に至った。四川生まれの巴金も正に余の出生の年（1946）に上海に移住し、原籍の浙江・嘉興と同じ中共初回党大会の開催地であるこの地に余生を過ごしたが、「傍観者」の余も当事者の巴もこの点で在野の立場や脱俗の思想を貫けなかったのは、伝統観念・中央統合の「中控」の強さを窺わせる。

要人の生殺与奪まで握る「極権」体制の執念と「神壇」伝説の呪縛

2006年2月に舌癌と宣告された吉村昭は翌1年後に別の癌で膀胱全摘の手術を受けた後、原稿依頼に応じられない衰弱化の中で、遺言状に明記した「延命治療はしない」意思を執行し、7月30日の夜に点滴の管と首の静脈に埋め込まれたカテーテルポートを自ら抜き、看病中の長女に「死ぬよ」と告げ、数時間後に79歳の人生を終えた。奇しくも明治天皇、幸田露伴、谷崎潤一郎の命日（1925、47、65年に死去）に当る日の最期の究極の選択は、「自決」を目撃した同じ作家の妻・津村節子も認めた「尊厳死」の美談¹¹⁹⁾に成った。対照的な中国の著名人の延命治療の強制終了は胡志明^{ホー・チミン}の死期の欺瞞発表の不条理の「条理」と通じるが、台湾の病院で氣息奄奄として余命1日も無さそうな国民党元老・吳稚暉に対して「総統府」側は、蔣介石の66歳誕生日の「拳島」（「拳党」に擬えた造語、「島」=台湾）祝賀に水を差すことへの懸念から、圧力を掛けて前日（1953年10月30日）の夜11時台に酸素管^{ホース}を外させ同28分に死なせ、「抢救無効」（救急治療の甲斐無く）死去した訃報が具合好く11月1日に発表される結末と成った¹²⁰⁾。

意志と体質を過信し治療を嫌う毛沢東もニクソン訪中直前の1972年2月12日（78歳、年末に満79歳）、不整脈に因る重度の意識・呼吸障害に陥り生死の境を20分以上彷徨った。緊急治療から蘇生した彼は深刻さが判らない儘で酸素吸入マスクを取り外し、左腕の点滴静脈注射用^{チューブ}管をも引き抜こうとした。其を制止したと言う長年の保健医・李志綏¹²¹⁾は後に移住先の米国で毛の裏の顔を暴露したが、回想録に拠れば毛の臨終前の最後の言葉は、秘書・張玉鳳を通じて彼に訊ねた「還有救嗎？」（まだ望みが有るのか）である¹²²⁾（当局が認める看護婦・孟錦雲の証言では、彼女に言った「我很難受，叫医生來」[とても気分が悪い、医者を呼んでくれ]と成る¹²³⁾）。桜の刹那的な儂さを好む日本人と梅の孤高・耐久を尊ぶ中国人は死生観も自ずと

異なるが、「極権主義」（全体主義を言う中国語）国家の生殺与奪を握る「極権」（絶対権力）は更に、「老兵は死なず」の貪欲さに輪に掛けて「老兵を死なせず」の執念を生み出し、「只消え去る / 消すのみ」の敵に対しても非業の末路へと導く悪意の延命を施す時がある。

劉少奇は軟禁が続く1968年の夏に肺炎に罹ったが、党中央弁公庁の責任者は救急治療を命じる際に、存命中に党籍剥奪の処分を知らせ党大会の為に活きた標的を残そうと言った¹²⁴⁾。8期12中拡大総会閉幕の10月31日に党籍剥奪が決定されたが、新聞や放送に接する権利を奪われた彼に対して当局は選りに選って翌月24日、其の70歳の誕生日に政治的な処刑を通告した。注射で完膚無きの程に成り^{チューブ}管挿入の鼻腔栄養法で生命を維持中の劉は、激しい嘔吐と体温・血圧の急上昇に見舞われ、死まで1年間も完全に失語した。「残忍」の字面通りの残存・堪忍を強いられた悲劇は、莫言の長篇小説『白檀の刑』（2001）に出た一世一代の極刑を連想させる。清末の山東長官は民衆を組織して独逸軍へ抵抗した罪人の死刑に就いて、可能な限り残虐で幾日も死なず苦痛を味わわせる方法を処刑人に注文した。自らの名声と命を賭けて考案された遣り方は、細く削った白檀の棒を肛門から首に掛けて突き通し其の儘で^{はりつけ}磔にする事である。悶え苦しむ受刑者の命を保つ為に特製の朝鮮人参汁物を飲ませた処に、1905年に廃止された古来の最も陰惨な「凌遲」（生身の人間の肉を少しずつ切り落とし長時間苦しませた上で死に至らす）処刑の極意が窺える。

坂口安吾は「日本文化史観」（1942）の中で京都・祇園の芸者の中途半端さを酷評し、中国の「盲妹」（貧しい親に目を潰され演芸を習得して身を立てる娘）の才覚と色気を例に、中国的な「徹底的・あくどさ」を肯定的に論じた。「4人組」を生んだ山東が舞台と成る同省出身の莫言の残酷物語の中で、独逸軍が敷設を取り仕切った鉄道の開通式に合わせて絶命させる趣向もこの性格を帯びる。共和国の式典の一条乱れぬ演出・出演も好く域外から「悪趣味」として敬遠されがちで、心憎い程の徹底さで意志の勝利を誇示する究極の事例は、北京五輪開会式や建国60周年閱兵・祝賀行進の為に首都一円の人工消雨作戦である。露西亞祖国防衛戦争・欧州反ファシズム（旧連合国対独逸）戦勝60周年記念式典（モスクワ、2005年5月9日）や、2006年主要国首脳会議（G8サミット）開会（サンクトペテルブルク、7月15日）の為にプーチン政権の措置の真似は、過去の超大国と未来の超大国が共通する中心統合型の思考・行動様式に基づいた。東京五輪開会式は「世界中の秋晴れを集めた様な」¹²⁵⁾好天に恵まれたが、幸福を射止める人事も尽くさず天命を待つ射幸心が幸運に当たったのが実態である。F86F戦闘機群が空中で旋回し5色の煙を吐き出して5つの輪を見事に描いたが、五輪史上初のテレビ宇宙中継で世界中を魅了したこの1齣の裏にも「中空」があった。1度だけの全5機が白い煙を出す演習も成功しなかった儘で本番を迎え、而も前日の東京地方の土砂降りの豪雨で明日も飛行は無理で、中止に成ろうという隊長の思い込みで全員が痛飲し、翌朝8時に閉め忘れた^{カーテン}窓掛から差し込む眩しい日光で目覚めて慌てて基地に駆け付け、2時半の離陸の際に2日酔いを治す

為に過換気症候群を顧慮する余裕も無く100%の酸素を吸った¹²⁶⁾。

莫言を総参謀部専属作家として抱えた解放軍は、熱戦・冷戦時代を貫いた常在戦場の根性が強く左様な弛緩は想像し難い。日本流の天気予報の推量形は予言の困難さからすれば理屈に合うが、責任回避の逃げ道を用意して置く狡賢さの匂いもする。中国流の断定形は専門家の自負の表出として国民性に似合い¹²⁷⁾、局地の天候を意の儘で制御する消雨作戦は「中控」の極み付けと言えよう。食材の持ち味・季節性を重んじる日本料理の自然尊重の指向性と、盛大に火を通し複雑に形を弄り濃厚な味を付け華麗に色を添えがちの中華料理の人工征服の志向性も、日本的な「しめやか・恬淡」と中国的な「戦闘的・激情」¹²⁸⁾の違いを具現する。東京五輪開会の1964年10月10日の朝、東京都知事・国際五輪委員会委員の東龍太郎が恐る恐る窓掛の隙間から外の様子を覗き込むと、天気予報を無視する絶好の青空を目にして子供の如く「万歳」と叫んだ¹²⁹⁾が、北京五輪開会式の会場・国家体育场辺りの平年8月8日夜8時頃の降水確率が約5割と高く、当日局地的な豪雨の発生も予測されたが、望外の天の恵みに頼らず雨雲の接近を妨害する自助で安心感を勝ち取った。

午後4時から8時間弱の間に気象当局は21ヶ所でロケットを1104発も打ち上げ、沃化銀を雲に打ち込む大作戦は強固な意志と科学的な裏付けで奏功した。建国60周年祝典の安全と快適を保障する為の大挙の治安部隊配置と人工消雨作戦は、国家目標の「4つの近代化」の中の工業・農業に続く国防・科学技術の両輪の威力を見せ付けた。1971年9月13日未明、林彪が妻子と共に河北・遼寧の省境に近い山海関の海軍航空兵基地から飛び立った。異状の第1報を受けた周恩来は林の死党の逃亡や攻撃を防ぐ為、直ちに全国の軍隊・民間に対して「禁空（全域飛行禁止）令」を発し、毛沢東を中南海から空襲や砲撃に強い人民大会堂に移動させた。30年後の紐育・華盛頓で「9.11」同時多発恐怖襲撃が起きた際も、連邦航空局が間も無く全米で飛行を禁止したが、大統領・副大統領は危険を避けるべく首都以外の別々の場所に秘密裏に移った。中国の「中控」を端的に示した両巨頭の中枢鎮座・1元指揮で、蒙古との国境の手前まで進んだ専用機に対して誘導弾に由る撃墜の可否が問われたが、毛は「天要落雨、娘要嫁人、讓他去吧」（雨は降るもの、寡婦は再婚したがる〔娘は人に嫁ぐ〕¹³⁰⁾もの〔どうしようも無い〕。好きにさせるがいい）と言った。自然の成り行きで仕方が無いという諦観は大国の領袖に相応しいが、勝手な降雨を許すまい第4世代は彼よりも強硬である。

1956年6月4日、毛の専用機は武漢から帰京の途中で雷雨の影響で地面との連絡が40分間途絶えた。其の後安全の為に党中央は彼の飛行機乗りを原則的に禁じたが、この逸話で注目すべき点は、当時彼の専用機が空に居る限り、護衛の戦闘機を除いて本土全域で1機なりとも飛べなかった事¹³¹⁾である。米大統領が権勢の強大さも警備の厳重さも世界1とされるが、面積が米国と大体同じの広大な領土で罷り通ったその過剰ぶりは、独裁体制の故の「history = his story」を絵に描いた観が有る。その気に成ればナポレオンの豪語の如く辞書に「不可能」は

無いわけであるが、1984年の国慶閱兵式では天安門の上空を通る戦闘機の編隊飛行は曇り空の中から姿が余り見えなかった¹³²⁾。北京五輪以降その遺憾を補えるに至ったのは技術の進歩の賜物に違いないが、仕掛けの用意を促し使用を決めた政治的な判断が大きい。

五輪聖火の国内中継では地球上最高(8844.43^{リレー}メートル)の珠穆朗瑪峰^{チョモランマ}への登頂も万能の顯示に他ならないが、起点を海南省三亜と定めたのは、中央統合への求心力を高める現実的・観念的な意図が明確に見える。天涯の果ての景勝地が有る海南島の南端のこの都市は美称「鳳凰(の)城」で、別称「鳥(の)巢」の国家体育場へ目指す出発地として、「鳳還巢(鳳凰が巢に還る)の大団円を成す縁起が良い。三亜は海軍の4大艦隊の一角の南海艦隊の原子力潜水艦基地であり、2009年から建設開始予定の第4の人工衛星発射基地(甘肅省酒泉, 四川省西昌, 山西省苛嵐に続く海南省文昌)にも近い。「鉄砲から政権が生まれる」伝説はこの起点にも投影したが、終点の「巢」の中の偉人の「帰天(天に帰る)も軍の影が付き添いがちである。

中共中央・全人代常務委員会・國務院・中共中央軍委が発布した毛沢東の訃報は、「全党・全軍・全国各民族人民に告ぐ書」の題に「先軍」の性質を映した。毛の肩書は「中国共産党中央委員会主席・中国共産党中央軍事委員会主席・中国人民政治協商会議全国委員会名誉主席」と成っているが、中共中央軍委とは2枚看板を出しながら実質的に一体を成す共和国国防委員会(1983年以降は同中央軍事委員会)も、憲法の建前上で国家の最高の意志決定機構である全人代とほぼ同格の国政助言機関の全国政協も、「文革」中は名存実亡を超えて名実俱に蒸発した儘であった。1975, 78年の憲法では全国の武装力(解放軍・民兵)は党が指導し党中央主席が統率すると定めたが、共和国中央軍事委員会が同統率権を持ち全人代に責任を負うとする現行の82年憲法の規定に照らすまでもなく、「国家機器」(国家統治の法律・制度・執行機構)を恣に破壊した毛の超法規的な絶対凌駕の産物・遺物に他ならない。毛は1954年に中央人民政府人民軍事委員会の解消でその主席から国防委員会主席の椅子に移ったが、5年後に同職を兼任した劉少奇の失脚で空席に成った国家主席の職位は、自分の就任をも林彪への譲渡をも拒否した毛の「中控」志向の所為で、1975年の新憲法でも外され元首欠落の中空を遺した。1957年の「反右派闘争」以降は1党独裁の虚飾に過ぎなかった翼賛野党の諸「民主党派」も、党外の党や党内の派を許容せぬ非民主・反民主の体制の抑圧の下で形骸化した。

毛は余命1年を切った1975年10月21日にキッシンジャー米國務長官と会見した際、健康状況の悪化を白状した上で「私は訪問客の為に用意される展示品なのです」と自嘲した¹³³⁾。その時代の全人代は党の決定を追認する「護謨判^{ゴム}」として「お祭り国会」「しゃんしゃん総会」の観が強かったが、政治協商会議に至っては赤裸々な専制統治を隠す不在証明の為の陳列品に近かった。日本でも参議院は「良識の府」としての機能の發揮が不十分な故「参議院のカーボンコピー^{カーボンコピー}」と揶揄され続けたが、政協会議の虚飾性・無力化は同じ民主主義議会の範疇内の参議院の「衆議院化」の比ではなかった。自ら名誉主席の座に据わるその観賞用の「帝国の表徴」

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）（夏）

の形まで骸（死に体）にしたのは、協商の装いを惜しみ無く捨てる「極権」管掌・絶対完勝願望の結果としか言い様が無い。「朕即国家」の権威及び「臣民」の畏敬の「维系」（維持）の為の異系排除は、数千年の歴史を持つ老大国と数千万人の党員を擁す超大党の異形・異型の負の面の極致である。中南海・新華門の入口に今も掲げている標語の「戦無不勝の（百戦百勝の）毛沢東思想万歳」は、全軍の統帥を経て党首と成り国家に君臨した「家長」の名残の様に映る。2008年に北方工業大学（北京）法律学部4回生・趙婧天（女子）が胡锦涛・温家宝・李長春・習近平等に投書し、「文革」式の「戦無不勝」と封建的な「万歳」を含むこの非科学的で時代遅れの標語の刷新を大胆に提言したが、政治局は慎重に討議した¹³⁴⁾ものの「神」に触るまい従来の姿勢を踏襲し今日に至った。

毛は自己中心的な性格に相応しく中南海の公邸兼私邸内の臨時集中治療室で逝ったが、専属保健医・李志綏は解放軍305医院の院長を務め（1970年末就任、79年末辞任）、周恩来が逝去まで1年半に亘って闘病した場所が中南海の北側の近隣の同病院¹³⁵⁾である。毛の後継者・華国鋒も北京五輪閉幕直前の8月20日に同病院で87歳の天寿を全うしたが、競合相手の鄧小平^{ライバル}（巴金と同年齢）は1997年2月19日に解放軍総医院（301医院）で亡くなり、その未亡人・卓琳も2009年7月29日に同じ享年（93歳）¹³⁶⁾で此处から亡夫に会いに行った。意味深長な事に、譚甫仁、羅瑞卿の「不幸逝去」を伝える訃報の「終年六十歳」「終年七十二歳」に対して、鄧小平逝去の際の中国共産党中央委員会・中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会・中華人民共和国国務院・中国人民政治協商会議全国委員会・中国共産党及び中華人民共和国中央軍事委員会の「全党・全軍・全国各民族人民に告ぐ書」では、「享年九十三歳」と記した。中国人の最初の厄年の73歳にも満たない譚中將・羅大將の不本意な死の「終年」と違って、2番目で見つ最後の厄年の84歳を超えた鄧の「享年」は天寿を全うした大往生の意が有ろう。

「告全党全軍全国各族人民書」は建国後2度だけ出されたが、1回目の「極其悲痛地向全党全軍全国各族人民宣告」（この上無く悲痛な心情を以て、全党・全軍・全国各民族の人民に宣告する）は、2回目では「宣告」ならぬ「通告」に変えた。政協全国委員会・国家中央軍委の連名が示す法制の健全化と連動して、今回は神格性^{カリスマ}を稀薄化し情報公開に踏み切った。「我々の敬愛なる鄧小平同志は晩期パーキンソン病を患い、肺感染症を併発し、呼吸・循環機能の衰弱に因り、救急治療の甲斐無く、一九九七年二月十九日二十一時零八分に北京で逝去し、享年九十三歳。」以下は改行して、2段落目として次の称賛が続く。「鄧小平同志は我が党・我が軍・我が国の各民族の人民が一致して認める崇高な威望を持つ卓越した指導者であり、偉大なマルクス主義者であり、偉大な無産階級革命家・政治家・軍事家・外交家であり、長期に亘る試練を乗り越えた共産主義の戦士であり、我が国の社会主義の改革・開放と現代化建設の総設計師であり、中国特色の有る社会主義を建設する理論の創立者である。」次に12の段落で偉業を詳述した上で「光輝一生」（輝かしい一生）を総括し、故人の自己規定に即して「他不愧是中国

人民的偉大兒子」（彼は中国人民の偉大な息子の名に愧じない）と讃え、「他深情地愛着自己的祖国和人民，祖国人民也深情地愛戴他」（彼は自分の祖国と人民を深く愛し，祖国・人民も彼を深く敬愛している），という情の絆で結ぶ「鄧小平情結^{コンプレックス}」を織り成した。

毛沢東の死因を述べる「告全党全軍全国各族人民書」の表現は、「在患病後經過多方精心治療，終因病情惡化，醫治無効」（病氣中，手厚い治療を受けた。にも関わらず，遂に病状は悪化し，手の施しようが無かった）と言う。彼が最後に送った花輪は76年7月7日に逝った福州軍区司令・皮定均中將への弔意表示であるが，新華社発の訃報はヘリコプター墜落に由る事故死を報じず単に「不幸殉職，終年62歳」と伝えた。其の前日に他界した朱徳の訃報は「不幸」は無く「終年九十歳」と記したが，中共中央文献研究室編『毛沢東伝（1949-1976）』（2003）では「享年九十歳」と有る一方，この「不幸消息」（不幸な知らせ）を聞いた毛の反応を述べた¹³⁷⁾。華国鋒から第一報を受けた彼は病名を訊ね，「どうしてこんなに早く……」と呟いた¹³⁸⁾が，遺族も容体の急変に覚悟が無かった意外性も「円満辞世」の「享」には成らない深層意識の一因かも知れない。

毛沢東を礼賛し「文革」中の事実上の国歌に成った「東方紅」（李有源作詞，1943）の歌詞を借りて言えば，翌々月の毛の逝去は「為人民謀幸福」（人民の為に幸福を謀る）の「大救星」（救いの巨星）の墜落にも関わらず，彼の統治下で多かった「非正常死亡」（大飢饉や「文革」の迫害等に因る死）と違って，訃報は当然ながら「不幸」の文言が無く正常な死亡として扱った。国賓会見の写真・映像報道が曝け出した末期的な衰弱で国民の想定範囲の内だった事も大きい。主病名の筋萎縮性側索硬化症と周恩来の膀胱癌が訃報で伏せられた（後者の場合は「因患癌症」）のは，鎖国時代の情報管制らしく「隱私」（私生活上の秘密）保護とは異なる「恥部」隠蔽の伝統に沿うことだ。

朱徳の訃報も「因病醫治無効」（病氣治療も効果が無く）という常套句で死因を糊塗したが，6月21日に濠太刺利首相と会見した後の風邪・咳が心臓病・糖尿病を悪化させた劇変は，外交部担当者の不手際で時間変更の連絡が無く冷房の効き過ぎた広間で長時間待たされた経緯がある¹³⁹⁾。ある意味では古い部下の皮定均の翌日の悲劇にも似通う不慮の事故死と言えるが，不都合な真実が含まれた死因の未公表は他の指導者の訃報との整合性を考慮した節が有ろう。彼は1975年1月に全人代委員長に選出された後，重病の周・毛の負担を軽減させるべく外交儀礼の国事活動を頻繁にこなしたが，身代りの心算の奉仕の末に同じ「訪問客の為に用意される展示品」として文字通り捨身の代償を払った。

毛はニクソンに対して自らの体調を「外強中干」（見掛けは強そうだが内実は脆くて弱い）と自嘲し，曾て彼が「米帝国主義」の原子爆弾を蔑称した「紙老虎」（張り子の虎）の様相も無くはなかったが，日本語に無い中国語の「唬」（[虚勢を張ったり事実を大袈裟に言ったりして]脅かす。誤魔化す）の字形・語義は，執務能力を失い掛けた「中空」に見えても「中控」

「毛沢東^{コンプレックス}情結」と「北京^{コンプレックス}情結」——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）（夏）

を確り保ち続けた「紙」ならぬ「神」の威力に吻合する。現に、1976年の春に彼は病弱で引き籠り状態に陥り外部の情報に疎く成り、身心俱に閉塞気味の中で意味深長に「私は展覧用の偶像だ」と繰り返して愚痴を^{こぼ}零したが、「首都」「天安門」「焼・打」（首都の天安門で起きた焼き打ち事件）を容認できないとして、有無を言わせぬ「天声」で「4.5運動」への弾圧を許可し異論を封じた¹⁴⁰。

毛は「万寿無疆」（^{いくひさ}幾久しく長寿を保たれますように）という昔の君主へ捧げる祈願を全国民から受けたが、その訃報に享年の記載が無いのは個人崇拜の迷信に由る虚像・幻想との乖離が大き過ぎた故でもあろう。彼は1961年3月（67歳）に英国の陸軍元帥・モントゴメリー子爵（73歳）との懇談で、「七十三、八十四、閻王不叫自己去」（73歳と84歳〔は厄年で〕、閻魔様が呼ばなくても自分があの世に行く）という諺を引いて、若しこの2つの関門（孔子、孟子の享年〔数え年〕に由来した中国人の男女共通の厄年）を突破できれば、人間は100歳まで生きられるだろうと語った。享年の満82歳、数え年84歳は第2の「坎」（勘所。鬼門）の手前で鬼籍に入った計算に成るが、数え年を指す「虚歳」の「虚」は大往生の享年を享受し得なかった毛・周の帰着に暗合する。1887年11月17日に生まれたモントゴメリーは奇しくも周・朱・毛と同じ年の3月24日に88歳で逝ったが、彼より1歳年上（前年12月1日に誕生）の朱徳の享年も満90歳の大台に届かなかった。『戦国策・秦策五』が出典の警句は「行百里者半九十」（100里を行く者は90里を半ばとす）と言うが、「長命百歳」の目標に当て嵌まれば90歳が「半百」に当る事は2人や呉稚暉・蔣介石の享年（88, 87歳）で裏付けられた。若き毛沢東は「自信人生二百年」（自ら信ず 人生二百年）という句で長寿への執念を詠んだが、彼の実人生はその物理的な半分（100年）の内の哲学的な半分（90年）に照らせば、理想の「長征」の^{フルコース}全行程の1/4（quarter）にも達しない儘で道半ば命尽きたということに成る。

鄧穎超は1982年7月11日に周恩来の甥・姪に対して、無意味な延命治療に因る夫の最期の苦痛への不憫を吐露し、自分が重病で死を迎える際には絶対に二の舞いに成りたくないと遺言を述べた¹⁴¹が、恰度10年後の同じ日に彼女は88歳で辞世した。更に17年後の卓琳逝去の18日前の7月11日に、301医院で大学者・季羨林が満98歳を目前に世を去り、2003年に入院以来5回も見舞いに訪れた温総理が直ぐ駆け付け、8月6日の誕生日祝いとその時の討論の^{ネタ}材料を準備していたのにと遺体に悔みの言葉を掛けた¹⁴²。季は言語・文化・歴史・印度研究・比較文学の分野で碩学として名高く、翻訳・随筆の業績も加えて「国学の大師（巨匠）」「学界の泰斗」「国宝」と呼ばれた。同日に中国の宗教学・哲学史の第1人者で国家図書館名誉館長の任継愈（93）も急逝し、2人の最高の頭脳を1日で失った事は社会に衝撃を与えた。季・任とも河北省に近い山東省西北部の出身で、故郷の臨清市と平原県の距離は僅か70^{キロ}である。任は「儒教は宗教である」という概念を定着させたが、孔子の生地と儒家の発祥地・山東は文化人を多産する土壤が有る。建国後に毛沢東の詩歌を始めて公表した『詩刊』誌の編集長・臧克

家（1905-2004）も、江青と同じ諸城生まれで江が図書館職員を務めた（1931-33）国立青島大学で就学した（1930-34）後に臨清の中学で教鞭を執った。季・任は北京大学で長年教壇に立った旧知でもあるが、任は自宅で平静な大往生を遂げ、季は世間の注目を浴びつつも巴金並みの長寿に至らなかった。それでも、格別の声価を持つ至宝に上等な病室・医療を約2千日も提供した301医院は、再び至高の地位を内外に示した。

賀龍元帥は林彪等の迫害で1967年1月から2年余り監禁され、飲用水の極度の一時制限をはじめ、開国元勳に対して余りにも理不尽の非人道的な扱いが平然と成されたが、69年4月の党大会まで「活きた標的」として生命の維持は許された。6月8日に糖尿病中毒の症状が現れると、危険な葡萄糖輸液が不可解にも施された。翌朝に301医院に強制搬入されたものの迅速な対応が得られず、6時間後に厄年の73歳で人生の終止符を打たれた。死後に遺族が呼び出され遺体と対面した病室の番号「14」¹⁴³⁾は yaosi, yisi とも読むので、「要死」（死にたい。いよいよ死ぬ）、「已死」^{イース}（既に死亡）の語呂合わせで意地悪さすら漂った。林彪「自爆」後の名誉回復を経てその6周忌に遺骨安置儀式が厳かに執り行われ、余命^{いくぼく}幾許も無い周恩来は戦友を守り切れなかった後ろ目痛さの罪滅ぼしとして、風前の灯の様な病体で無理矢理に出席し涙ながら弔詞を述べ、お辞儀で哀悼を表わす際に通例の3回を超えて立て続け7回もして人々を感動させた。

当初「王玉」の偽名で平民用の納骨堂の地下室にひっそりと紛れ込まれていた納骨壺は、北京の八宝山革命公墓遺骨堂第1室の81号（1号室の81番）の場所に置かれた¹⁴⁴⁾が、「8.1」建軍節（由来は周・賀等による1927年8月1日の南昌蜂起）との暗合は意味深長な礼遇と言える。ともあれ、最精鋭の専門家・設備を揃えた解放军総医院が最上の死に場所であり、八宝山革命公墓遺骨堂第1室が最高の遺骨安置所である、という相場がこの物語でも証明された。引退後の江沢民は現指導部と距離を置き居住地・上海で隠然たる勢力を保ち、其処の華東病院を好んで利用するのは元軍委主席でありながら軍総病院を信用せず、不測の事態を防ぐ為に北京行きを避けたがる可能性が有る、と報じられた¹⁴⁵⁾が、「新上海閥」の大將・黄菊は膀胱癌で2007年6月2日に301医院で死去し（享年68歳）、前日に満54歳を迎えた習近平の台頭との対照が興味深い連環を成す。軍の病院は現役の最上級要人の指定進路の観が有るが、終身制の廃止で今後は中央首長も70歳で定年に成るので、臨終の場所も遺体の処置も自分の希望が通らなかった毛沢東の様な悲喜劇はもはや考え難い。

毛と親密な関係を保った越南の建国の父の遺体は、全国民（特に生前に会えなかった南部の人民）の為にレーニンに倣う永久保存が決定された。内戦終結（1975年4月30日）と南北統一（翌年7月2日）の間の75年8月29日、30年前の9月2日に独立宣言が行われた河内のバディン広場に胡志明廟^{ホー・チミン}が落成し、ソ連の専門家による科学的な処置が施され水晶棺に納まった遺体が「帝国の表徴」として展示された。火葬に付した上で遺灰を3地域の丘陵に埋め、石碑

や銅像を建てず記念に植樹して欲しいという遺志は完全に無視された。中国の列車の1番/2番、3番/4番、5番/6番の北京－韶山（長沙）、北京－モスクワ、北京－^{ハノイ}河内の順と暗合して、^{ホー・チミン}胡志明の国葬の恰度7年後の9月9日に死去した中国人民の「亡父」の防腐は、ソ連との冷戦状態に因り同盟国・越南の専門家からソ連直伝の技術で応援を得た¹⁴⁶。

建国後に火葬の制度化を推奨した毛沢東は自分の遺骨に就いて、生前魚を沢山食べた事の罪滅ぼしを兼ねて長江に撒き、其の魚が又誰かに食べられて人民への奉仕に成る、と満70歳の直前に語った¹⁴⁷。1956年4月27日の中央工作会議で率先して要人等151名連名の火葬発議書に署名した快挙も空しく、特殊な局面に於ける政治局の政治的な配慮でレーニンと同様に永久保存することと成った。遺体安置の為に天安門広場の真ん中に建設された毛主席記念堂は、^{ホー・チミン}胡志明廟の工期の半分に当る1年未満で1周祭の日に完成した。当時の北京市建設委員会副主任・李瑞環が工^{プロジェクト}程現場総指揮として脚光を浴び、1987、89年の政治局委員、常務委員への昇格も「神壇」祭祀の重要性の^{あかし}証に成った。彼が大工青年突撃隊隊長として工事に携わった人民大会堂等の建国10周年記念の建築物群の設計段階で、周恩来は既に主席の「百年之後」の記念堂建設の用地としてこの場所を押えた¹⁴⁸。真ん中に人民英雄記念碑しか無い広場の長年の「中空」は、「帝国の表徴」の出現で忽然と「中控」の伏線が浮上したわけである。

当の周の遺骨は死後の汚辱を防ぐ意図も有って¹⁴⁹、遺言に沿って北京郊外の密雲貯水池、天津の海河と山東墾利県黄河口（黄河が渤海に入る処）に撒かれ¹⁵⁰、鄧小平も彼やエンゲルス^スの例に倣って海に散骨され、故郷や所縁の戦場・勤務地への安置や散骨を希望する者も少なくないので、元々「生在蘇州」の対句として無理気味の有る「死在柳州」は益々死語に化した。但し、八宝山革命公墓遺骨堂の「聖域・禁域」の性質も、11室の中の1号室（特に中央正面の区画）の「神壇」¹⁵¹の地位も、第16回党大会の標語「与時俱進」（時代と共に前進・変容する）ではなく、「与時俱存」の不易を呈し続けている。

注釈

80) 河合隼雄『中空構造日本の深層』（中央公論社、1982年）。

81) 本稿筆者の独創の概念。初出は夏剛「日本の中空・“頂空”（頂点の空虚）と中国的“中控・頂控”（中心・頂点に由る支配）——『日本礼法入門』を手掛りとする両国の言語・概念の一比較」（『立命館言語文化研究』第13巻2号、3号[2001年]、4号[02年]に連載[71-84頁、185-196頁、211-222頁]）。

82) Hedde『万物解』（1848）の言、宮崎市定「明清時代の蘇州と軽工業の発展」（1951）より（『宮崎市定全集』第13巻、岩波書店、1992年、83-84頁）。

83) 桃井裕里「中国指導部に新登竜門 共青团や蘇州閩が台頭」、『日本経済新聞』2005年2月7日。

84) 建国後好く南方に行く毛は特に「第二の故郷」と称した浙江を好み、杭州には合計40数回、延べ800日余り滞在した。（陳晋『独領風騷——毛沢東心路解説』、万卷出版公司、2004年、218頁）中共中央文献研究室編、逢先知・金沖及主編『毛沢東伝（1949-1976）』に、「杭州は私の第二の故郷」という

語録が有る。(下巻 1719 頁)

- 85) 国土交通省道路局ウェブサイト, 「道の相談室 道路についての定義・用語」。
- 86) 『フリー百科事典 ウィキペディア』, 「ダイヤグラム」。
- 87) 日本民営鉄道協会ウェブサイト, 「Q&A 鉄道の“上り”“下り”って何ですか?」。
- 88) 長江鉄路網, 「列車所謂的“上行”和“下行”是以什么為参照物的?」回答 (2005 年 2 月 5 日); 百度網「百度知道 從連雲港到烏魯木齊是上行還是下行? 為什麼?」回答 (2007 年 3 月 28 日); 「百度知道 鉄路の上行線と下行線怎么区分呢?」回答 (2008 年 4 月 29 日); 鉄路門戸網, 「鉄路知道 什么是上行, 下行?」回答 (同年 7 月 19 日)。
- 89) 『フリー百科事典 ウィキペディア』, 「ダイヤグラム」。
- 90) 金振林「毛沢東隠踪之謎 (1966.6.17-28)」([広州]『花地』月刊 1989 年第 5 期), 日本語版 (松本英紀・李潔訳『毛沢東 謎の十二日間——文化大革命発動の真相』, 悠思社, 1992 年), 108-109, 273-275 頁。中の「一九七六年九月八日, 張平化省党委第一書記」(275 頁) は, 張が周小舟失脚の 1959 年廬山会議の直後から「文革」初期まで務めた職位と混同した。省党委第 1 書記は 70 年 11 月から華國鋒と成り, 党主席就任の翌 77 年に漸く解かれた。
- 91) 金振林「毛沢東隠踪之謎」に拠ると, 重病の毛は 6 月に故郷に思いを馳せ, 其の為にバイカウントが長沙—北京間を何度でも試験飛行をし, 8 月に毛は自動車で南下し滴水洞に療養することを望んだ。(日本語版, 273 頁) バイカウントは英国製の世界初の実用大型ターボプロット機で, 排気瓦斯を再利用して発動機の駆動力を高めるターボプロット機は推進機回転時の騒音が高い, と同書の注 (279 頁) は言うが, 移動手段の快適か否か以前の問題として, 1000^{キロ}以上の距離が決定的な障害であった。1974 年 12 月 23 日に周恩来が飛行機で長沙へ毛に組閣等に就いて訓示を仰ぎに行った時も, 決死の決意で医師の特別許可を得て最後の気力を振り絞ったのである。(張佐良『周恩来保健医生回憶録』, 上海人民出版社, 2008 年, 263-265 頁 [同書 1998 年初版『周恩来的最後十年』, 日本語版 (早坂義征訳『周恩来・最後の十年 ある主治医の回想録』, 日本経済新聞社, 1999 年) 333-336 頁], 楊扶真「周恩来扶病飛長沙」[李克菲・彭東海『秘密專機上の領袖們』, 中共中央党校出版社, 1997 年, 199-211 頁] 等) 中共中央文獻研究室編, 逢先知・金沖及主編『毛沢東伝 (1949-1976)』の記述では, 政治局は毛が 7-8 月に出した故郷での療養の要求に同意せず, 理由は如何なる移動でも生命を脅かしかねないことである。(下巻 1784 頁) 長距離移動が健康上耐え難い状況下での飛行機手配は, 安全上の理由で毛の空路利用を原則的に禁じる党中央の内規を考えれば非常措置と言える。

興味深い事に, Vickers Viscount の中国語名「子爵号」は林彪夫人・葉群の私党一味内での暗号名で, 林彪夫妻が 1969 年 10 月初旬に河北・張家口の軍事基地への視察に赴く時も, 安全性の高さで当時の中国では最良とされ 2 機しか輸入していなかった同種の特別機に乗った。(張雲生『毛家湾紀実 林彪秘書回憶録』[春秋出版社, 1988 年] 308-309 頁。日本語版 [横山義一訳『私は林彪の秘書だった』, 徳間書店, 1989 年] では割愛されたが, 1969 年夏に江西省井冈山を再訪した時の林彪専用機「子爵号」の使用が記されている。) 中国語の「子爵」は「自決」(自ら決める)・「自絶」(①自ら進んで関係を断つ。②自殺/自滅する)と同音 (zijue) で, 3 語とも奇しくも林彪夫妻・息子の亡命・自爆の顛末に暗合した。『広辞苑』の「自決」の語釈は, 「①みずから決断して自分の生命を絶つこと。自裁。“引責-”② (self-determination) 他人の指図を受けず自分で自分のことをきめること。“民族-”」と成るが, 中国語の語義に無い①は些か日本的な自虐・過激の感じがし, 日本語に無い中国語の「自絶」の意味を兼ねる点は日本的な「凝縮志向」(注 8 参照) の体現とも思えるが, 毛沢東と訣別した林彪の離反・出奔は正に自殺的な自滅である。

林の国外逃亡の深層的な真相は依然として「黒匣子（黒箱）」（^{ブラック・ボックス}blackbox）の中で封印されているが、「子爵号」（葉）と共に Trident（中国語＝「三叉戟」）に搭乗したのは事実だと考えて能い。中央首長特別機の機長を務めた空軍副参謀長兼師団長・楊扶真の回想では、周恩来の最後の空路利用に際して葉剣英（党中央・军委副主席）は衰弱し切った病体を配慮して、騒音の小さい「三叉戟」を指定し発動機の好い1機を選ぶようにと指示し（李克菲・彭東海『秘密專機上の領袖們』、201頁）、周は「長沙詣で」（本稿筆者のこの表現は「詣でる」の「参上する（謙讓語）」「神仏の礼拝に参る」の両義に引っかけ、その和製語義が無い漢字の「詣」（中国語では「行く。訪れる」「到達する」の意）の「言+旨」の組み合わせに即して、旨い言説を駆使して君主の言質や「聖旨」を取るという周の駆け引きを字面に反映するもの）の飛行中、「三叉戟」は飛行が平穩で震動が小さく而も速い、今後もこの機種を利用したいと称賛の言葉を発した（同、206頁）。1970、71年にパキスタンから輸入した4機の英国製 Trident が、中国唯一の同機種に由る空軍中隊を成し、中で性能が最も良い256号機が林彪の特別機と成った。

「9.13事件」の衝撃を受けた毛沢東は杜牧の「七絶・赤壁」を借りて万感を表わした（中共中央文献研究室編、逢先知・金沖及主編『毛沢東伝（1949-1976）』、下巻1604頁）が、冒頭の「折戟沈沙」は「三叉戟」の翼が折れて蒙古の沙漠に沈んだ末路の絶妙な点描に成る。詩の全文は「折戟沈沙鉄未銷，自將磨洗認前朝。東風不与周郎便，銅雀春深鎖二喬。」であるが、[清]蘅塘退士編・日加田誠訳注『唐詩三百首 3』（平凡社、1975年）では、中国で一般的な「銷」は「消」とされ訳（95-96頁）はこう成っている。「折戟沙に沈んで鉄未だ消せず、自ずから磨洗を將て前朝を認む。東風 周郎の与に便せずんば、銅雀 春深うして 二喬を鎖さん。」

『広辞苑』の「消魂・銷魂」（①驚き悲しんで元気を失うこと。②われを忘れて耽ること。精神を奪われること）の通り、日本語では「消・銷」は同じく同音の中国語と一緒に同義の場合が有るが、『広辞苑』の「消魂窟」（いろまち。遊里）でも示す様に「消」の方が一般的に使われる。中国語では逆に「銷魂」（過度の刺激で放心状態に陥り、恰も魂〔人の精霊〕が体から離脱して行く様な状態。悲哀・憂愁の情況・心境や男女の恋心・快樂の形容）が規範的で、文語的な要素が比較的薄く漢字の難易度も低い「消魂」は便宜的な表記に過ぎない。『辞海』の「銷魂」の項には「亦作“消魂”」（亦「消魂」とも書く）と有るが、この大辞典+大事典は「消魂」の項を設けていない。

1954年10月に毛沢東は訪中の印度初代首相ネルーを歓送する宴会で挨拶し、その中で「中国のある古人に曰く」の形で先賢の古文を引用した。出席した胡耀邦が後に紙切れに「暗然消魂者、惟別而已矣！」と書いて秘書に詳細を訊ねたところ、出典は南朝・梁の江淹の「別賦」の文句で「暗」と「消」は其々「黯」と「銷」が正しいと言われた。（『秘書工作』雑誌社主編『高層秘書——55位党政軍領導親歴』、中共党史出版社、2010年、105頁）江淹は若い頃に才氣煥發で名を揚げながら晩年は詩文に佳作が無かったことから、「江郎、才尽く」の故事（〔特に文筆の〕才能が衰えることの比喩）を遣した。胡が初出と著者を知ると即座にあの「江郎才尽」の人だねと反応したのは努力家・読書家の彼らしいが、「暗」「消」は孔子が学に志した15歳で職業的な革命家に成り学歴が中学2年で終わったその教養の限界を物語っている。何しろ、「別賦」のこの句に対して『文選』の[唐]呂向に由る注で「黯然、失色貌」（黯然とは、色を失う様）と講釈し、それに由来した成語の「黯然失色」（黯然として色を失う）は知識人にとって難しくないはずだ。

中国語の「黯淡（澹）」は「暗淡」とも書き（『辞海』の同項目〔1999年版から項目名の中の“（澹）”を削除した〕は、「同“暗淡”」「“暗淡”に同じ」とする）、「不明亮」（明るくない）、「不鮮明」の意である（『辞海』の語釈、古代の用例として呉融の詩「東帰望華山」の「不奈春煙籠黯淡、可堪秋雨洗分

明))。対照的に日本語では「暗澹」(『広辞苑』の語釈=①暗くて静かなさま。②うす暗く、ものすこいさま。③将来への希望などを失って暗い気持ちでいるさま。見通しがつかず悲観的なさま)が標準的な表記で、「暗淡」の書き方は何故か「淡泊・淡麗」を好む国民性とは裏腹に無い(但し、小学館『日本国語大辞典』第2版第1巻[2000年]には、「黯澹」とは別の項で『広辞苑』に無い「黯淡」が有る[語釈=薄暗いさま])。中国語の「黯然」(『辞海』の語釈=①「黒貌」[黒い様]、②「頹喪貌」[沈み込む様。落胆する様])は通常「暗然」と書かないが、日本語では「暗然・黯然」は同じ語彙である(『広辞苑』の語釈=①暗いさま。また、黒いさま。②悲しくて心のふさぐさま)。

江淹の「一銷魂」と同じ「黯然」②の意の成語「黯然神傷」は日本語には無いが、「暗然として意気消沈する」という標準的な訳し方から、「黯」ならぬ「暗」で「黒」を忌み嫌う潜在意識が読み取れる。「消沈」と「折戟沈沙鉄未消」の部分的な吻合も吟味に値するが、使用頻度が特に低くないのに『辞海』に於いて項を立てていない「消沈」は、『広辞苑』の項で「消沈・銷沈」と表記し(語釈は「きえうせること。衰えてしまうこと」)、杜牧の七絶詩「登楽遊原」(楽遊原に登る)にも「長空澹澹孤鳥没、万古銷沈向此中」と有る(市野澤寅雄『漢詩大系14 杜牧』[集英社、1965年]の訳=「長空澹澹孤鳥没す、万古銷沈此の中に向う」、201-202頁)。

専門家に由る「折戟沈沙鉄未銷」の日本語訳には、「銷」の儘であるのも儘有る(1例が市野澤寅雄『漢詩大系14 杜牧』の原作・訳文[207頁])。目加田誠訳の「未消」は「磨洗」と合わせれば両国の言語が共有する「消磨」と重なり、歴史の風化・流転・消長を表現するのに相応しい風流な処理とも思えるが、「消」より「銷」の方が同じ「金」偏の「鉄」に似合うと見るのも自然であろう。日本的な「水(氵)」偏嗜好と中国的な「金」偏嗜好は陰陽5行の中のこの2元素の対立・統一を示唆するが、老子『道德経』第43章の「天下之至柔、馳聘天下之至堅」(天下の至柔は、天下の至堅を馳聘す)に沿って考えると、水が途轍も無く長い時間を掛けて徐々に金属を腐蝕する意の「鉄消」(消=消磨・磨滅)も有り得る。「赤壁」詩の中で「消」は同じ「氵(水)」偏の「沈沙」「洗」「深」と妙に呼応するが、その「水脈」は日本の「水に流す」文化の根強さを思わせる。

「消磨」は『広辞苑』で「①すりへること。すれてなくなること。磨滅。②すり消すこと。消してなくすること」の両義だが、『辞海』では①「逐漸消耗；消除或消滅」(次第に消耗する。除去する、或いは消滅する)、②「消遣時間」(暇潰し[退屈凌ぎ]をする)で、古典の用例として①には白居易の詩「夢旧」の「平生憶念消磨尽、昨夜因何入夢来?」、辛棄疾の詞「江城子・侍者請先生賦詞自寿」の「人生今古不消磨」が有り、②には黄庚の詩「龍江館舍」の「書冊消磨白日閑」が有る。「亦作“銷磨”」(亦「銷磨」とも書く)という「1語2形」の中で「銷」は副次的な位置に在るが、「銷磨」が無い日本語に比べて中国語の硬派な特色が浮き彫りに成る。

『道德経』第28章の「知其雄、守其雌」(其の雄を知り、其の雌を守る)を振^もつて言えば、中国語や中国的な発想は日本語や日本的な発想に対して「知其雌、守其雄」の傾向が強い。「肖」を共有する「消」と同音の「銷」は「立刀」偏が象徴する「削」の人工的・能動的な性格の故に好まれ、中国語独特の「吊銷」(〔証明書・免許等を〕没収し無効にする)や「撤銷」(撤回する。取り消す。効力を消す)が有るわけだ。『辞海』に項が有る「撤銷」は「撤消」の表記も有り得る(漢語大辞典編集委員会・編纂処編『漢語大辞典』第6巻[漢語大辞典出版社、1990年]の「撤銷」の項には、「亦作“撤消”」と有る)が、「破毀(破棄)院」と和訳される仏蘭西の最高裁判所の中国語名は「撤銷法院」と言う。「撤銷」と和製漢語の「破毀」で合成した様な中国語の「銷毀」は、「熔解する。焼却する。廃棄する。処分する」という多義を持つが、金属を鑄す「熔解」を液体に溶ける意の「溶解」で表わしがちの日本語の感覚は、やはり孔子が言う「知者楽水」(知者は水を楽しむ)の源流に近い。因みに、[東京]東方書店・

[北京] 商務印書館共同編集, 相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編『東方中国語辞典』(東方書店, 2004年)では, 項目名は「撤消」で「“撤銷”とも書く」と記されている。

その自然・柔軟な「水+容」の「溶」に対して朱鎔基の名前の中の「金+容」の字は人工・峻厳な^{イメージ}形象が際立つが, 彼の湖南同郷・胡耀邦が毛沢東の挨拶を聴いて書き記した「惟別而已矣」に感嘆符を付けたのも, 河南の人・江淹の原文のこの件は無い「戦闘的な激情」(注127参照)の発露と言えよう。因みに、『辞海』の「黯然」「銷魂」の2項で引用される「惟別而已矣」は句点で締めるもので, 権威有る日本語訳も「しめやかな恬淡」の滋味を帯びる(例えば, 高橋忠彦『文選(賦篇)下』[明治書院『新釈漢文大系 81』, 2001年]に有る「黯然として魂を銷す者は, 惟別れのみ」[236頁])。猶, 「銷」は溶解・破棄の反面「金」の貨幣の意味に由来する価値創造の側面も有り, 「銷售」(販売する), 「推銷」(販路を広げる。売り捌く), 「傾銷」(^{グンペンツ}不当廉売する。投げ売りする)が例に挙げられる。

- 92) 1970年9月16日に記者に語ったこの感想は, 訪欧中に英国から弟・秩父宮に送った手紙にも記された。(高橋絃『陛下, お尋ね申し上げます 記者会見全記録と人間天皇の軌跡』, 文春文庫, 1988年, 143頁)
- 93) 佐野真一曰く, 「“お痛みですか”と侍医に問われ, “痛いとはどういうことか”と問い返した昭和天皇が, 平成のいま, “心の病”に苦しむ雅子妃を見たらどんな言葉をかけるのだろうか。」(『ドキュメント 昭和が終わった日』, 文芸春秋, 2009年, 64頁)
- 94) 陳晋『独領風騷——毛沢東心路解読』, 217頁。
- 95) 中共中央文献研究室編, 逢先知・金沖及主編『毛沢東伝(1949-1976)』, 下巻1694-1729頁。
- 96) 同上, 下巻1496頁。
- 97) 同上, 下巻1694頁。会見の相手はトゴ大統領, ナイジェリア軍事政権首脳, モーリタニア大統領, 比律賓大統領夫人, ガボン大統領で, 俱に途上国から来た。
- 98) 翟華「1974-1975: 暮年毛沢東何以離京270天」, 『東方文化西方語』(翟華博客 [ブログ], blog.sina.com.cn/s/blog_48670cb20100ihub.html?tj=1), 2010年5月24日。
- 99) 中共中央文献研究室編, 逢先知・金沖及主編『毛沢東伝(1949-1976)』, 下巻1729頁。
- 100) 同注98。
- 101) 20世紀の中国でマグニチュード6以上の地震が800回以上起きたが, 1級行政区の中では浙江・貴州2省と澳門だけが免れた。(中国科学院数据中心「強震発生重災図」, 中国公共科技網)
- 102) 同注98。
- 103) 中共中央文献研究室編, 逢先知・金沖及主編『毛沢東伝(1949-1976)』, 下巻1783頁。
- 104) 原非・張慶編著『毛沢東入主中南海前後』, 115-116頁。
- 105) 手術・急死に至った一連の経緯は, 羅瑞卿伝編写組『羅瑞卿伝』(当代中国出版社, 2007年)に詳しい。鄧小平の後悔に関する言及は, 羅元生「羅瑞卿客死他郷の前前後後」(『党史文匯』[山西省史志研究院主管, 月刊]2003年第2期)にも有る。
- 106) 王治秋「難忘的記憶」, 『人民日報』1978年7月30日。
- 107) 徐友春主編『民国人物大辞典』(河北人民出版社, 1991年)及び増訂版(2007年)では, 1874年(〔清〕同治13年)生まれとされているが, 本稿は『辞海』の1875年説に従う。
- 108) 少華・遊胡『林彪这一生』, 湖北人民出版社, 2003年, 420-425頁。
- 109) 「彭德懷平反一波三折」(著者不詳, 『党史博采』(中共河北省委員会党史研究室主管, 半月刊)2005年第11期)。
- 110) 曾彦修「対新版『辞海』的印象」, 『書屋』月刊2000年第7期。
- 111) 同上。

- 112) ソ同盟共産党中央委員会附属マルクス＝エンゲルス＝レーニン主義研究所編，マルクス＝レーニン主義研究所訳『レーニン全集』第15巻，1956年，14頁。拙稿「“儒商・徳治”の道：理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化（3）」（『立命館国際研究』15巻2号，2002年）の中で，「数学の定理も人間の利益に抵触すれば修正されようと言うレーニンの論断」と書いた（46頁）が，発表後の精査で判明した正確な記述を以て此処で其の不備を訂正する。
- 113) 譚夫妻が軍区政治部保衛副課長・王自正に刺殺された経緯は，王広沂「春城槍声——譚甫仁將軍被害案偵破始末」（『人民公安』2003年第12期）に詳しい。劉慶栄「神秘的新中国首例高級将領被謀殺案」（『文史精華』[中国人民政治協商会議河北省委員会文史資料委員会主管，月刊]2003年第11期）もインターネット国際電脳網で流布しているが，文中の訃報の新聞掲載日（12月23日）は追悼会の日と混同した誤認である。
- 114) 高文謙『晩年周恩来』，日本語版，下巻321-322，332頁。
- 115) 趙焯『西花庁歲月——我在周恩来鄧穎超身邊三十七年』，社会科学文献出版社，2009年，345-347頁。
- 116) 鄭業・陶瀾「“長寿是一種懲罰”“我要為大家活着”」，『中国青年報』2004年11月24日。
- 117) 桜井よしこは参拝直後の論評「首相よ，衣を整え闘いに臨め」の中で，「笑止である。靖国神社と戦没者遺族会にとって最重要の秋の例大祭の日に首相が参拝し，その日が偶然，神舟帰還の日にぶつかったにすぎず，声明は言いがかりである」と書いた（『異形の大国 中国——彼らに心を許してはならない』，新潮社，2008年，75頁）。但し，城山英巳『中国共産党「天皇工作」秘録』（文春新書，2009年）には，次の客観的な記述が有る。「小泉参拝のこの日は，中国にとって○三年に続く有人宇宙船“神舟六号”が帰還した日。中国国民が歓喜であふれる中，靖国参拝は明らかに水を差すものだった。」（222頁）
- 118) 「巴金病逝 来自病榻的震撼：“長寿是一種懲罰”」，『天府早報』2005年10月18日。
- 119) 津村節子「《お別れの会挨拶》全文——吉村 昭氏の最期」，『芸芸春秋』2006年10月号，132-137頁。
- 120) 汪幸福「吳稚暉：趕在蔣介石生前去世」，『文史博覽』（中国人民政治協商会議湖南省委員会主管，月刊）2009年第7期。本稿で記した当時の蔣・呉の歳・享年は俱に満年齢。
- 121) 李志綏『毛沢東私人医生回憶録』，[台北]時報出版，1994年，536-537頁（英語版に拠る日本語版[新莊哲夫訳『毛沢東の私生活』，芸芸春秋，1994年]，下巻340-341頁）。明記されなかった日付や病因等は，中共中央文献研究室編，逢先知・金沖及主編『毛沢東伝（1949-1976）』下巻1615-1616頁に拠る。

毛を蘇生させるべく胡旭東医師が拳でその左側の胸部を強く敲き続け，その措置は驚いて度を失う嫌いの有る危険なものだったと李志綏は言うが，『毛沢東伝』で引用された張玉鳳「毛沢東，周恩来晩年二三事」（『炎黄子孫』[春秋出版社，隔月刊]1989年第1期）は，心臓病専門家の胡医師が背部を敲いたとし，時の中央警備団団長（連隊長）も『張耀祠回憶録——在毛主席身邊的日子』（中央党史出版社，2008年）の中で，右手で背部を敲いたその救命措置は妥当で且つ強力なもので胡は党・人民に手柄を立てたと擁護した。張耀祠はこの一幕（222-224頁）を2月上旬のある日の事と記述し，舒雲「百問九一三（3）」（舒雲探訪九一三事件[ブログ，<http://blog.sina.com.cn/sy2222196>]，2009年9月12日）に出た張耀祠の証言では，記録することは制度上許されず自分も書き留める勇気が無かった為，歳月が経つに連れて忘れて了ったが，9日か10日だったのはずだ，と語った（時系列で展開した『張耀祠回憶録』では，2月6日の出来事の後に位置する）。他方，張佐良『周恩来保健医生回憶録』の詳述（190-193頁。日本語版220-225頁）では，時期は71年11月中旬のある夜と成っている。この様に関係者の証言は記憶の曖昧さの所為か日付・病状・緊急治療の様子に食い違いが大きく，史実の

確認の困難さを窺わせる。

- 122) 李志綏『毛沢東私人医生回憶録』, 6頁(日本語版, 上巻14頁)。
- 123) 郭金栄『走進毛沢東的最後歲月』, 中共党史出版社, 2009年, 206頁。^{コン・チャン}張戎+ジョン・ハリデイ『毛』もこの説を取っている(日本語版, 下巻511頁)。
- 124) 劉少奇は軟禁が続く1968年の夏に肺炎に罹ったが、党中央弁公庁の責任者は救急治療を命じる際に、存命中に党籍剥奪の処分を知らせ(翌年の)党大会の為に生き標的を残そうと言った。
- 125) 開会の定刻の50分前の午後1時20分から始まったNHKテレビの中継で、実況担当の北出清一郎アナウンサーの第一声は、「世界中の秋晴れを集めた様な、今日の東京の青空です……」。
- 126) 中塚聡「“東京五輪”秘話 “開会式パイロット”は離陸まで二日酔いだった」, 『週刊新潮』2008年7月30日号, 52-54頁。
- 127) 中国語教育の権威者として名高い相原茂は、「断定する中国の天気予報：日中“天気”比較」(「MAO的コラム 中国語から考える」第56回, 公式ホームページ「MAO的小屋 相原茂の隠れ部屋」2008年6月13日)の中で、「日本と中国の天気予報の比較をした人はいるだろうか」と問い掛け、決して断定はしない日本流と確率や可能性への配慮が殆ど無い中国流とを比較して、予報と割り切って外れに無頓着で自然の変化にもラフな中国人の特質を指摘し、中国では天気予報は官から民への情報伝達で疑義を差し挟む余地は無く、権威に異議申し立て等は以ての外という気配が有る、という日本人の天候への繊細さに似合う穿った見方も提示した。

両国の天気予報を比較した人は他にいるか否かは寡聞にして知らないが、この違いに着目した本稿筆者の分析はその15年前からもう複数回で世に出ている。先ず「失題：バベルの塔の廃墟に立って」(論説, 『立命館国際研究』6巻3号「1993年12月」)の中で、1つの段落を使って次の様に思弁を展開した。「私が日本で覚えた最初の“言語衝撃”は、“明日は晴れるでしょう(晴れる見込みです)”という、放送メディアの天気予報の推量形であった。中国は勿論、英国を除く多くの国では、自信が無いように聞こえるのを嫌う心理からか、“明日は晴れだ”の断定形が普通ようだ。“日本の常識は世界の非常識”とよく言われるが、島国の気候の変わり易さや人間を凌駕する“天”の測り知れなさを考えれば、世界の常識と日本の常識は、一体どちらが理に適うだろう。但し、その推量形の天気予報も実は、大正時代のラジオ放送に伴う新しい言語現象なのだ。“明日は晴れるはずだ”の言い方に慣れていて明治の人々も、私以上に推量形の表現に驚いた、という。だが、更に翻って、成立の経緯の如何に拘らず、この表現様式の内容は紛れも無く、日本語の内的な秩序と可能性を物語っている。」(196頁)

又、「生活風景の中の“文化溝”^{カルチャー・ギャップ}——衣・食・住・行における日中文化の比較」(第2612回立命館土曜講座[2002年9月21日]での講演)の冒頭で、比較文化への興味が湧き研究領域を其処に移す契機と成った体験・所見をこう語った。「33歳で来日した時は、中国政府のシンクタンクで日本文学の研究をやっていましたが、日本で色々な“文化溝”^{カルチャー・ギャップ}に遇いました。最初の例を挙げますと、来日した日に観たテレビの天気予報は、“明日は晴れるでしょう”と言いました。単純な現象ではありますが、中国流の“明日、晴”に慣れていて私には新鮮でした。/後に聞いた処に拠れば、世界では断定形が主流で、日本は英国と共に少数派だそうです。共に気象が変り易い島国の環境や、彼の西洋の“紳士の国”とこの東洋の“君子の国”の国民性の類似で、解釈が付くかも知れませんが、色々と考えさせられました。例えば、中国人が断定形を使うのは、自信が無い印象を避けたい意識が見え隠れしますが、不確かな天気予言には推量形が理に適うとも思えますから、中国流は一種の強がりではないかと疑念を抱き始めました。」(立命館大学人文科学研究所編「立命館土曜講座シリーズ 14 日中国交回復30周年——日中の過去・現在・未来——」, 2002年12月, 55-56頁)

- 128) 和辻哲郎は『風土——人間学的考察』（岩波書店、1935年）の中で、風土の特殊性に由る「日本の国民的性格」として「しめやかな激情、戦闘的な恬淡」（原文に傍点）を挙げ（138頁）、注で次の様に説明した。「愛情を“しめやか”という言葉で形容するのは、ただ日本人のみである。そこには濃やかな感情の静かな（原文に傍点）調和的な融合が言い現わされている。“しめやかな激情”とは、しめやかでありつつも突如激情に転じ得るとき感情である。すなわち熱帯的な感情の横溢のように、単調な激情をつづけて感傷的に墮するものでもなければ、また湿っぽく沈んで湧き立たない感情でもない。」（154頁）中国語では「しめやか」に当る「肅穆」「冷清」は確かに愛情の形容には使えず、日本的な「物の哀れ」や淡泊さもこの2語からの逆照射で「日本的な気質」（138頁）として確認できようが、本稿ではその逆説的な命題を通常の組み合わせに変えて、日中の国民性の傾向の一端を表わす。
- 129) 財団法人日本オリンピック委員会監修『近代オリンピック100年の歩み』、ベースボール・マガジン社、1994年、169頁。
- 130) 笈文生は「雨は空から降る」の中で「天要落雨、娘要嫁人」を王有光『呉下諺聯』（1820）に見える俗諺として、「雨は空から降る、未亡人は再婚したがる」という早坂義征訳『周恩来・最後の十年』の訳を支持し、産経新聞「毛沢東秘録」取材班『毛沢東秘録』下巻の「雨は降るもの、娘は嫁に行くもの」を誤訳とした。（一海知義・笈久美子・笈文生『漢語いろいろ』、岩波書店、2006年、76-77頁）但し一方、『呉下俗聯』で言う「娘、孤陰無陽、要嫁人則陰之求陽也」の「娘」は少女を指す、という説も有る。（百度百科「天要下雨、娘要嫁人」）
- 131) 李克菲・彭東海『秘密專機上的領袖們』、103-104頁。
- 132) 詠康『13次新中国三軍大閱兵 揭秘共和国十三次大閱兵内幕』（黄河出版社、2008年）の記述では、「呼嘯着飛馳過布滿雲霧的天安門上空」（鋭くて長い爆音を立てながら、雲霧が一面に行き渡った天安門の上空を疾駆して通過した）と言い（216頁）、他の年の好天候・視界良好との違いが際立つ。
- 133) 孟紅「毛沢東笑談生死」（『党史縱覽』[中共安徽省委党史研究室主管、月刊]2007年第5期）に拠ると、原文は「我是為來訪者準備的一件陳列品」。ウィリアム・バー編 *THE KISSINGER TRANSCRIPTS The Top Secret with Beijing and Moscow* (1999)、鈴木主税+浅岡政子訳『キッシンジャー「最高機密」会話録』（毎日新聞社、同年）では、「私は訪問客向けの展示品なのです」と訳されている（455頁）。
- 134) 「女大学生上書 促換新華門標語」、[台湾]連合早報網、2008年4月8日。香港『明報』が情報源と成る記事に拠ると、趙は中国の平和・統一の為に天安門城楼に孫文と毛沢東の肖像を同列に掲げること提案した。新華門の入口の両側の標語の由来は、本稿注23で言及している。
- 135) 李志綏『毛沢東私人医生回憶録』の「一九七〇年代作者所認識的中南海」図（目次の次）、日本語版・上巻の「北京市・中南海要図（1950～70年代当時）」（巻末）には、中南海の西北隅の周恩来邸と堀及び道1本隔てただけの第305病院の至近距離が一目瞭然である。因みに、周邸の名称「西花庁」は両方とも「西華庁」と誤記し、中国語版の不純（著者以外の参与者の加工）と日本の記者・出版社の不案内を思わせる。
- 136) 公式発表では鄧小平夫妻の享年は同じ93歳とされるが、卓琳の1916年4月6日-2009年7月29日は満93歳に達したのに対して、鄧の1904年8月22日-97年2月19日は数え歳の93である。
- 137) 中共中央文献研究室編、逢先知・金沖及主編『毛沢東伝（1949-1976）』、下巻1783頁。
- 138) 尹家民「朱徳元帥最後の軍礼」、『党史博覽』2002年第4期。
- 139) 同上。
- 140) 張玉鳳「回憶毛主席去世前的一些情況」（未刊稿 [未發表原稿]）、「毛沢東聽取毛遠新關於天安門事件情況匯報時的談話（毛遠新筆記、1976年4月7日）」（中共中央文献研究室編、逢先知・金沖及主編『毛

「毛沢東情結」^{コンプレックス}と「北京情結」^{コンプレックス}——当代中国の政治文化の根底の基本線・中軸線（中）（夏）

- 沢東伝（1949-1976）』、下巻 1775-1777 頁）
- 141) 周秉徳『我的伯父周恩来』、318-319 頁。
 - 142) 中国新聞網 2007 年 7 月 11 日電（北京）「温家宝赶往医院 原準備在 8 月為季羨林祝賀生日」。なお、公式発表の季の享年 98 は数え歳を指す。
 - 143) 程世剛「賀龍骨灰安放的曲折經過」、『党史博采』2007 年第 11 期。
 - 144) 同上。著者は周の 7 回ものお辞儀の礼に就いて、未亡人の 8 回説を取り上げ且つ支持した。
 - 145) 「江沢民氏、心臓病で入院か 香港誌報じる」、『産経新聞』2009 年 8 月 8 日（情報源は香港『開放』誌 8 月号）。
 - 146) 「歴史解密：越南領袖胡志明遗体保存秘聞」、新浪網国際在線、2004 年 12 月 21 日。
 - 147) 孟紅「毛沢東笑談生死」。1956 年 4 月 27 日に毛が署名した火葬發議書の連名者数は、文中 136 名と記したが、151 名が正しい（「民政部長多吉才讓在記念毛沢東等老一代無産階級革命家簽名倡導火葬 40 周年座談会上的講話」、1956 年 4 月 26 日）。
 - 148) 「安佑忠：毛沢東遗体怎么移進水晶棺仍是謎」、搜狐新聞網 2006 年 9 月 6 日。
 - 149) 周は逝去の半年前の 1975 年 7 月 1 日に病院で関係者との最後の記念撮影に臨む際、「後で私の顔の上に×を付けなでくれ」と言って、死後に批判され政治的に抹殺される事への懸念を吐露した。（高文謙『晩年周恩来』日本語版、下巻 297-298 頁）73 年に受けた毛の悪辣な敵^{パッシング}きの後遺症が見受けられるが、隣に立つ外交部副部長・喬冠華も当時、保身の為に周の「投降（軟弱）外交」への非難に加担した。72 年、75 年に逝った「文革派」の康生・謝富治は 80 年に党籍を剥奪され、遺骨も八宝山革命公墓から追放されたので、周の内心の陰影は杞憂とは言えない。
 - 150) 遺骨は全て撒くようにという周の遺言に沿って、生前所属の中南海西花庁党支部の構成員等が検討し夫人の同意を得て、故人と所縁の深く政治・文化的な符号の意味を持つ 3 ヲ所への散骨が決定され、周の副護衛長等と葬儀委員会の代表に由って執行された。本稿筆者は「“ 儒商・徳治 ” の道：理・礼・力・利を軸とする中国政治の統治文化（3）」の注 139 で、散骨の経緯を語る中国側の複数の証言・文献を点検し、一部の不正確・不整合の記述を指摘した（『立命館国際研究』15 巻 2 号、59-61 頁）が、日本の刊行物の誤訳にも触れたい。張佐良著、早坂義征訳『周恩来・最後の十年』に、「天津の海と河」と出た（396 頁 [上記拙文では 306 頁と誤記した]）が、海河は河川名である。
 - 151) 1989 年に中外文化出版公司より刊行された権延赤著『走下神壇的毛沢東』（神壇 [神の座] から歩み降りた毛沢東）は、元護衛長・李銀橋の回想に基づいて毛の人間臭い素顔を活写した。個人崇拜の祭壇を形容する「神壇」と同じ聖化された禁域の意味で、同作者は 4 年後『走下聖壇的周恩来』（中共中央党校出版社）を出した。

（夏 剛、立命館大学国際関係学部教授）

“毛泽东情结”与“北京情结” ——当代中国政治文化的根基、枢轴之一（中）

本文对照日本“符号帝国”之根底的“中空”与中国“帝国符号”之基轴的“中控”，以全国特快列车中北京—韶山（后改为长沙）编号排第1这一现象为切入点，联系毛泽东临终前欲回故乡养病而不得归根、终逝京城的结局，指出毛及北京对全国拥有辐射中心般的控制、影响能量。

中共“极集权”体制的绝对意志和毛泽东“甚神坛”传说的强烈“咒缚”（咒语[观念]束缚），从北京奥运会开幕式、闭幕式时“驱雨维晴作战”及对政要生杀与夺的掌握都可见一斑。毛泽东遗体不顾其付之火化的遗志而永久保存于天安门广场正中郑重特设的主席纪念堂内，又在贯穿紫禁城及“圣域”南北周边的中轴线上增添了似落实伏的“红日”的残照点睛。

（夏 刚，立命馆大学国际关系学院教授）